

教科等研究会（小学校体育部会）

令和5年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

『児童一人ひとりがかかわり合い、運動の楽しさや喜びを味わう体育学習』

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6月9日	36人	白旗小	10月26日	木倉小	濱口萌奈美	12月13日	嘉島西小	宗像佑子	1月26日	広安西小	平山暁啓

※第3回は、感染症拡大予防の為、規模を縮小して開催。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 研究テーマ設定の理由

小学校の体育は、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指している。この目標を達成するために、知識や技能を身に付けることを中心とした学習だけでなく、仲間と関わり合いながら、児童一人ひとりが運動の楽しさに触れ、生き生きと学習に取り組む体育学習を目指して本研究テーマを設定した。また、児童の実態を把握し、運動が苦手な児童の不安に寄り添いながら、すべての児童が楽しく参加したり、関わり合いを活発にしたりする手立てを中心に研究を進めることにした。

② 研究の実際

ア 研究授業 5年 仲間と目指す「私の金メダル！」（器械運動：マット運動）

授業者 濱口 萌奈美 教諭（木倉小学校）

本学級は、体を動かすことに喜びを感じている児童が多く、友達の頑張りを一生懸命応援しようとする姿が見られるが、友達の動きを見て、こつやポイントをアドバイスし合うような関わりにはもう一歩である。また、自分のことだけになり、他者へ関わろうとする意欲が低い児童もいる。そこで、「自分に合った技を磨き、仲間とともに『できた！』を分かち合いながら、マット運動の楽しさや喜びをみんなで味わおう！」を単元のゴールに定め、ペアやグループによる学び合いを中心に、仲間との関わり合いの活性化をねらって学習を進めた。

イ 研究授業 5年「みんなで楽しく！ハート&パス」（ボール運動：ゴール型）

授業者 宗像 佑子 教諭（嘉島西小学校）

本学級は、体を動かすことを肯定的に捉える児童が多い一方で、体を動かすことに対し、マイナスな気持ちを持っている児童も数名おり、主体的な学びが高いとは言えない。そこで、ボール運動の学習を通して、自分の考えが相手に伝わる喜びを実感させる場やお互いが認め合える場を意図的に設定することで、仲間と関わることの有用感を感じられるような仲間づくりをねらって学習を進めていった。

ウ 研究授業 4年「跳ビンピック - チームで技を高め合おう -」（器械運動：跳び箱運動）

授業者 平山 暁啓 教諭（広安西小学校）

本学級は、体を動かすことを楽しんでいる児童は多いが、跳び箱運動に対しては苦手意識を持っている児童が数名いる。特に安全面に関して不安を感じている傾向がある。そこで、児童が安全で易しく、楽しいと思える場の設定を行い、児童が安心して活動に参加したり、楽しんで挑戦したりできる場の工夫を行った。また、グループ活動を通して、仲間と関わり合う中で、運動の楽しさや喜びを味わいながら、主体的に体を動かしたり、技に挑戦する楽しさや喜びを感じられたりするような仕掛けを取り入れながら学習が進めた。

(2) 成果と課題

① 成果

- 今年度も例年通りの3本の授業研究会を行うことができた。残念ながら、第3回目は、感染症防止の対策として、規模を縮小しての開催となったが、3名の授業者はもちろん、共に授業づくりに関わった会員にとっては実りのあるものとなった。
- 授業研究会においては、各町の地区理事を中心に運営を図ってもらうことができたので、良かった。

② 課題

- 事前研では、授業づくりを通して、授業者だけでなく、参加者全員が主体となって学び合えるように、今後検討していく必要がある。
- 授業研究会を運営するにあたって、第1回目の研修会の際に、運営について地区ごとに集まって、確認する時間を設定する必要がある。

4 実践事例 5年 仲間と目指す「私の金メダル！」(器械運動：マット運動)

授業者 濱口 萌奈美 教諭(木倉小学校)

(1) 授業の概要

【自評】

- 成果としては、開脚前転ができるようになった児童が増えたのでよかった。児童が意欲的に学習に取り組むことができていた。苦手意識のある児童が積極的に技に取り組むことができており、振り返りでは、前時で学び合いが、×だった児童が、○になっていた。今日の金メダルのところでも、名前が挙がったのは、嬉しかった。課題としては、スイッチオンタイムでけがをした児童が出たので、再度安全面での指導を徹底する必要があると感じた。ペア活動のときは、うまく相手にコツを伝えることができていたが、全体発表ではうまく伝えることができず、該当児童の伝えかかったことをうまく引き出すことができなかった。ボールを股に挟んで開くことで、開脚の感覚を掴ませたかったが、前転の勢いを落としてしまったので、教具の使い方についてもう少し検討する必要がある。

【質疑応答等】

Q1：スイッチオンタイムに取り入れた技について

A：誰もが取り組めるようなものを入れている。サーキットでするのは、流れがある技を取り入れた。その他は、支持感覚を養う動きを入れたいと思って取り入れた。

Q2：授業の流れの中で、集合が何回かあったが、意図は？児童はどこで一番盛り上がったか。

A：3回。①課題をつかむ。②直接的指導の場面。③足が曲がっている児童が多かったため、児童のモデリングで把握させたいと思った場面。一番盛り上がったところは、チャレンジタイム2で自分のめあてにつながった瞬間(一番達成感があった。)

【班別協議】

- ・自己肯定感を高めるために用いた「金メダル」は有効的であった。
- ・場の設定がたくさんなされていてとても参考になった。
- ・運動量の確保が十分になされていたが、指導場面にかける時間や自己の課題解決のための時間などタイムマネジメントが大切である。
- ・ボールの活用は有効的であったが、ボールの種類や挟む位置などさらに検討の余地がある。

【助言・まとめ】

- 単元名が「マット運動」ではなく、「仲間と目指す「私の金メダル！」」というところに教師の意図と児童の実態をもとに単元デザインの工夫が感じられた。児童が生き生きと学習に取り組む、温かい雰囲気の中で授業が行われていた。「する」「見る」「支える」「知る」の4つの視点を与えたことで、みんなが主体的に学習に取り組むんだという思いが感じられた。直接指導の場面において、イメージ言葉を使って指導することができていたが、チャレンジタイム②の時間確保が必要だったと感じた。発達段階に応じ、自分の課題を選び、わかったことをもとに友達と教え合いながら解決していくことが得意な児童にとっても苦手な児童にとっても大事な時間ではないだろうか考える。児童が主体的に運動するような仕掛けを今後も大切にしながら、明日からの授業に生かしていただきたい。

4 本時の学習 (4 / 8)

(1) 目標 両手と後頭部をつきながら腰を高く上げ前方へ回転し、膝を伸ばして足を左右に大きく開き、接地するとともに素早く両手をまたの近くに置いて膝を伸ばしたまま開脚立ちをすることができる。(開脚前転)

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意点 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	7分	<p>1 課題をつかむ</p> <p>① 場づくり・用具の準備をする。 ◇ みんなが使いやすいように置こう。</p> <p>② スイッチオンタイムをする。 ◇ 今日も頑張るぞ!</p> <p>③ めあてと学習の進め方を確認する。 ◇ 今日は、手の着き方に気を付けて練習するぞ。</p> <p>④ 課題を焦点化する。</p>	<p>○ 全員で分担し、協力して素早く行えるようにするとともに、場の安全を確認する。</p> <p>○ スイッチオンタイムでは、子どもの緊張をほぐし、心も体も温まるような声かけを行う。</p> <p>○ 個人のめあてをペアで伝え合い、本時の学習への意識化を図る。</p> <p>○ 動画やイラストで、課題に迫る動きを共有し、本時の課題解決の視点がぶれないようにする。</p>
<p>【めあて】 「開脚前転」のこつやポイントを発見し、より美しく技をきめよう。</p>			
展開	30分	<p>2 課題の解決に向けて活動する</p> <p>① 発見タイム ◇ 起き上がる時に、どうしても足が曲がってしまふな。</p> <p>② 本時の課題解決方法を出し合う。 ◇ 手のひらを股の近くに置くといいんじゃないかな。 ◇ 足を素早く開くと勢いがつくよ。 ◇ 腰をグッと前に曲げるようなイメージかなあ。</p> <p>③ チャレンジタイム (1) こつやポイントをもとに、ペアで練習する。 ◇ 手の位置はできているよ。 ◇ もっと腰を上げるのを意識して、勢いよく回転するといいね。</p> <p>【期待される学びの姿】 これまでの学習内容や本時の気付きをもとに、身に付いていない動きや、新たな課題に取り組んで、より良い動きにつなげようとしている。</p> <p>④ チャレンジタイム (2) ◇ 昨日あと少しでできそうだった、伸膝後転にもう一度チャレンジするぞ。</p>	<p>○ 児童の動きやつぶやきをよく観察しておく。</p> <p>○ 動画や写真を見せることで、体の動きを視覚的に捉えられるようにする。</p> <p>○ 必要に応じて「足のどこが最初についている?」「どのタイミングで足を開いている?」など、視点を絞った追発問を行う。</p> <p>○ 児童から出たイメージ言葉を、発見ボードに残しておく。</p> <p>○ 見る視点を明確にし、練習を行うようにする。</p>
<p>【直接的指導】 腰を高く上げて勢いをつけ、膝を伸ばして足を左右に大きく開き、素早く両手を股の近くについて立ち上がること。 「回転ビュン」「ひざパッ! (開脚)」「手でグッ (着手の位置と腕支持)」</p>			
<p>【具体の評価規準】知② (方法: 観察、学習カード) 腰を高く上げて勢いをつけ、膝を伸ばして足を左右に大きく開き、素早く両手をまたの近くに置いて膝を伸ばしたまま開脚立ちをすることができる。</p>			
<p>【到達していない児童への手立て】 ○ 友達の動きを観察させたり、ICTで自分の動きを確認させたりする。また、前転の起き上がる速さをつけたり、傾斜を利用したりして、勢いをつけて回転する感覚がつかめるようにする。</p>			
終末	8分	<p>3 めあてに対する振り返りをする</p> <p>① 今日の学習を振り返る。</p> <p>② 頑張っていた人の発表をする。 ◇ 今日の金メダリストは○○さんです。</p> <p>③ 場の片付けをする。</p>	<p>○ ペアごとに学習を振り返り、自分たちの成長や次時への課題を話し合わせる。</p> <p>○ がんばっていた児童(今日のキラリさん)を称賛し合うことで、次時への意欲付けを図る。</p>
<p>【まとめ】 腰を高く上げて勢いをつけて股の近くで両手をつき、膝を伸ばして立ち上がると美しい「開脚前転」ができる。</p>			